

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年9月25日

【評価実施概要】

事業所番号	1271900266		
法人名	株式会社ジャパン・ケアサポート		
事業所名	グループホーム楠の杜		
所在地	〒289-2148 千葉県匝瑳市飯倉台1-4-12 (電 話) 0479-70-0234		
評価機関名	特定非営利活動法人コミュニティケア研究所		
所在地	〒260-0026 千葉県千葉市中央区千葉港4-4千葉県労働者福祉センター5階		
訪問調査日	平成20年9月25日	評価確定日	12月21日

【情報提供票より】(20年8月25日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年10月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	22 人	常勤専任12名, 常勤兼務3名, 非常勤7名, 常勤換算14.4名	

(2) 建物概要

建物構造	木 造		
	1 階建ての	1 階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	55,000円	その他	食費45,000円, 水道光熱費15,000円, ベッドリース100円/日, 個人消耗品費実費	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(200,000円)		有りの場合 償却の有無	無利子無利息とし退居時の居室改修費を相殺して残金返却
食材料費	朝食	300 円	昼食	450 円
	夕食	650 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 1,500 円			

(4) 利用者の概要(8月25日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	3 名	要介護2	1 名		
要介護3	9 名	要介護4	3 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84 歳	最低 59 歳	最高 98 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	鈴木医院 匝瑳市民病院 いむら歯科
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

平成16年に開設して、今年で4年目。総武本線飯倉駅から徒歩10分ほどの位置にある。周囲は住宅街だがとても静かな環境。入居者は次第に介護度が進みつつあり、この1年間は入院する者が多く、その対応に追われたとのこと。入居者・職員そろっての遠出の外出は減り、近所の散歩をしたり、ホームの庭やウッドデッキで外気浴を楽しむ、穏やかな日々を送っている。パソコンを使って作成している各種記録物は、とても見やすく整理されており、入居者の体調変化が時系列に把握できる。今後はターミナルケアが同ホームの課題となってきたそうである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目: 外部4)
	評価の意義の理解と活用および運営推進会議の開催については、現場職員の参加が見られなかったが、どちらも積極的に関わるように改善されている。ターミナルケアの方針については、原則的に看取りは行わないこととしている。訪問診療のドクターは確保したが、基本的に、自分で食事が出来なくなったら病院あるいは特別養護老人ホームなどを紹介している。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目: 外部4)
重点項目	現場の職員全員に、外部評価を説明したパンフレットを配布し、意識を高めるよう努めた。今回は評価にも参加してもらい、管理者・現場職員全員で取り組んだ。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目: 外部4, 5, 6)
重点項目	匝瑳市職員、民生委員、家族代表らが参加して、会議を開催している。主な議題は、入居者の状況、ホームの行事報告などである。昨年までは現場職員の参加が見られなかったが、今年からは参加を心がけ、会議の議事録を回覧して情報共有するようにしている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目: 外部7, 8)
重点項目	家族からは意見・要望・苦情等があまり寄せられていない。主としてお礼の言葉が中心であるとのこと。面会に来る家族は多いが、職員側も家族とどこまで関わってよいのか、やや迷いがあるように感じられる。家族と職員が忌憚無く意見交換できるような関係作りが望まれる。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目: 外部3)
重点項目	ホーム玄関に、職場体験学習の指定施設であることを示すステッカーが貼られているのが目を引く。中学生の体験学習受入れは積極的に行っている。正月には獅子舞がホームを訪れるなど、ホームと地域との付き合いが増え始めていると感じられる。

2. 評価結果 (詳細)

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	公平・公正を旨とし、個別具体的なケアサービスを提供するように努めている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	常勤職員のみならず、パートタイマーの職員にも、随時、ミーティングなどで、理念の再確認を行っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	中学生の職場体験の受け入れ、保育所の運動会見学、散歩などを通じて、近所との交流を図っている。正月には獅子舞がホームを訪問してくれた。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価票を全職員に配布し、さらにアンケートなども取って評価をまとめている。サービス評価の意義の理解をより一層深めるため、今年は説明資料も併せて職員に配布し、全体で取り組んだ。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	前回までは現場職員が運営推進会議に参加していなかったが、今年は参加するように努めている。参加できなかった職員のためには、議事録を回覧し、情報共有を図っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	主として運営推進会議において意見交換を行うと共に、必要があれば随時、連絡を取り合っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	2ヶ月に1回、『楠通心(くすのきつうしん)』という写真入りのホーム便りを送付している。同ホームは面会に来る家族が多いため、その都度職員が話をしたりしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営に対する意見・要望などはあまり寄せられていない。職員は、家族との関係構築については、その方法を模索している最中であるように感じられる。	○	職員と家族が忌憚無く意見交換できるような関係作りが期待される。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	居室担当者を置き、入居者に必ず馴染みの職員が一人いるように配慮している。パートタイマーの職員が、すんなりとホームに溶け込めるよう、周囲の職員が目を配っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	救命救急講習には、職員が交代で参加するようにしている。ミーティングの際に必要な事柄は随時話し合いをもっている。医療の知識や、福祉の制度面などについては、あまり勉強会等は行っていない。パートタイマー職員には、気づいたことがあれば個別に随時指導を行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	千葉県認知症高齢者グループホーム連絡会などを通じて同業者との交流を行っている。旭市のグループホームには職員がしばしば見学に行っている。成田市のホームからは、職員が見学に訪れたりもしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居したばかりの人には、職員の見守りの目を絶やさないように気を配っている。住替えの影響で認知症の症状が強く出て、不穏になってしまった場合は、家族や医師にも意見も聞きながら、支援の仕方を工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	家事などの軽作業、庭の草取り、おやつ作りなどを、職員と入居者が一緒に行っている。職員も、方言や昔の話、地域のことなど、入居者から学ぶことが多い。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は毎日の共同生活の中から、入居者の思いや意向を言葉や表情で把握し、連絡帳や業務日誌を通じて全ての職員と共有をし、できるだけ本人本位に実現できるように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は入所後いきなり作るのではなく、3ヶ月程度の観察や見守りを通して、家族や職員の意見も反映させ作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケアチェック表を基に居室担当とミーティングを持ったり、月1回のカンファレンスで問題点を抽出している。また医療機関の受診結果なども考慮して、家族とも相談し見直しを図っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族や入居者本人の要望に柔軟に対応している。広い庭を地域の駐車場として利用に供したり、ホームの持っている物的、人的資源をフルに活用し支援に努めている。体験入所も受け入れている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医については、入居者の心身の状態に応じ、内科・皮膚科・泌尿器科・整形外科・精神科等、希望のクリニックにそれぞれかかっている。医院ごとに貰う薬については、ホーム職員が慎重に仕分けし、同じ薬がダブったりしないようチェックしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	まだホームで看取りの経験はない。ホームでの生活は、原則入居者が自力で食事を取れる間とし、医療行為が必要になると病院や特養に移ることになっている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉掛けや対応は入居者の尊厳を重視し、個人ファイルにはグラフ化された健康管理記録が厳重な管理の下保管されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共同生活をする上で日課の一部にきまりごとはあるが、入居者一人ひとりの健康状況に応じて、その人のペースを大切に守り、その人に合った支援を心がけている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○ 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューは職員が交代で作るが、調理の下ごしらえ、テーブル拭き、食器拭きなどは入居者も参加して、楽しく会話しながら行っている。昼食は職員も一緒に楽しみながら食べ、介助したり見守ったりしている。		
23	57	○ 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴チェック表に入居者の状況が細かく記入されている。時間帯は概ね午後であるが、毎日入浴可能で、健康状態によって洗体、洗髪、髭剃りなど個別に支援がなされている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○ 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	広いウッドデッキの隅に別棟があり、2ユニット合同でお茶会をしたり、イチゴ狩や桜見物などの行事も行っている。入居者は、習字を楽しみにしている人や、男性は庭の草取りやモップ掛け、女性は家の中の軽作業を自分の役割りとして買って出る人もいる。		
25	61	○ 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームのウッドデッキを利用した日光浴やお茶会、菜園での収穫等、屋外には頻繁に出るようにしている。散歩や買い物にも出かけている。個別の外出希望に関しては、職員の人員配置や時間帯等を相談の上、対応している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○ 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は、玄関、非常口共に解錠している。入居者が一人で外に出てしまった場合は、センサーでチャイムが鳴るので、職員が気づけるようになっている。		
27	71	○ 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署との連携、職員への緊急通報、定期的な初期訓練などは行われているが、地域の人々との協力が得られるまでには至っていない。	○	運営推進会議などの場面を利用し、近隣への災害時協力体制作りが、引き続き求められる。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○ 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理者や職員は、入居者の健康状態をこまめに観察している。食事量が減ったりバイタルチェックで異変に気づいたら、個々に合わせて分量や食事形態を見直している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○ 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広いウッドデッキ、自然溢れる庭、居心地の良いホーム内部など、生活しやすい、家庭的な環境である。しかしながらホーム玄関に喫煙場所が設置されており、玄関に煙草臭が漂っているのが気になる。	○	入居者や家族の中には煙草が苦手な人もいると思われる。喫煙場所の工夫が望まれる。
30	83	○ 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	洋室と和室が用意されている。段差等はなく、明るく落ち着いた雰囲気のある居室である。持込みの品は、使い慣れた家具や思い出の品々で、個性的な作りになっている。		